蔵 畑 Ⅱ 遺 跡

―老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

２００６

安中市埋蔵文化財発掘調査団

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、碓氷川の流れに沿って存在する緑豊かな田園都市です。蔵畑Ⅱ遺跡は鷺宮地区の東、猫沢川と天神川に挟まれた台地の上にあります。現在ではこんにゃくを中心とした畑地が広がった農業地帯でありますが、周辺には縄文時代から中世に至るまでの多数の遺跡が発見され、太古より人々の営みがあった地域として知られています。

今回の発掘調査は民間開発による老人保健施設建設工事に伴うものであり、平安時代の集落跡が発見されました。なかでも、墨書土器や役人が身につけた石製の鉈尾、「奉」と墨書された石製品、瓦等といった一般的な集落では珍しい遺物が多数出土したことにより、本遺跡が寺院などといった何らかの公的施設に関連する可能性が高まりました。

こうした発見された歴史の遺産は、私たちの祖先の歩んできた姿を映すものであり、郷土の歴史として将来へと残していく必要があります。そのためにも今回の成果が、郷土の歴史を学習するために活用されることを願う次第であります。

最後に、発掘調査に協力していただきました医療法人信愛会様をはじめ、発掘調査に従事していただいた方々、調査に際して有益なご助言、ご指導をいただいた多くの方々には厚く御礼申し上げたいと存じます。

平成18年２月

安中市埋蔵文化財発掘調査団
団長　高　橋　重　治

例　言

1．本書は医療法人信愛会本多病院が実施した老人保健施設建設工事に伴う蔵畑Ⅱ遺跡（略称G－24）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査所在地は安中市鷺宮字蔵畑205－1外6筆である。

3．確認調査、本調査及び遺物整理は原因者負担により安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長　安中市教育長）が委託を受けて実施した。

4．調査期間

確認調査　平成7年2月20日～平成7年2月25日

本調査　　平成7年2月27日～平成7年3月7日

整理期間　調査終了後、平成18年2月28日までの間、断続的に実施した。

5．確認調査及び本調査は大工原　豊（当時安中市教育委員会社会教育課社会教育係主任）が担当した。遺物整理は大工原、深町　真（安中市教育委員会文化振興課文化財係主任）、井上慎也（同主事）が担当した。なお、遺物整理及び図版作成等の作業の一部については、市史編さん事業で実施した。遺物整理については飯田陽一氏、内田真澄氏の協力を得た。

6．本書の編集は井上が行った。本文は『安中市史』第4巻で飯田氏が執筆した内容を井上が加筆訂正し、再編集した。文責は井上にある。なお、遺物については深町が執筆した。遺物整理及び遺構図及び実測図作成の一部は市史編さん事業で実施し、大工原、飯田氏、内田氏、金井京子、古立真理子、氏家敏子が従事した。報告書作成では井上が市史の図版等を再編集し、報告書用に新たに図版を作成した。遺物全般については深町が担当し、土器実測図を追加した。墨書土器・石帯・墨書付扁平礫は内田氏、瓦・鉄製品等は井上が実測した。なお、報告にあたっては、整理期間が長期に渡ったため、本文及び図版等に発掘調査当時の記録及び所見とは異なる部分もある。

7．遺構の写真撮影は大工原が行った。遺物の写真撮影は深町が行った。

8．地質調査については、㈱古環境研究所に委託して行った。

9．発掘調査の記録、出土遺物等は安中市教育委員会が保管している。

10.発掘調査及び遺物整理の期間中、多くの方々にご指導、ご協力をいただいた。心より感謝の意を表します。

11．発掘調査・遺物整理従事者（平成6年度）

金井京子　佐藤佐由理　清水　正　下　マスエ　鈴木将之　須藤ダイ　多胡光子　田島かつ子

田島元治　田中利策　平出紀子　古立　京　丸岡民子　湯川光子

目　次

序
例言
凡例

Ⅰ　調査の経過…… 1
Ⅱ　調査の方法…… 2
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 2
Ⅳ　層序…… 4
Ⅴ　遺構と遺物…… 10
　1　遺跡の概要…… 10
　2　平安時代の遺構と遺物…… 10
Ⅵ　成果と問題点…… 38
Ⅶ　蔵畑Ⅱ遺跡の地質調査…… 41
写真図版

凡　例

1．遺構の実測図は1／80を基本としたが、遺構の大きさにより、1／40としたものもある。
2．遺構図中の北マークは磁北である。
3．遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
　土師器・須恵器・瓦：1／4　　石器：1／4　石製品：1／3　鉄製品：1／2
　土器実測図にあるマーク　●：須恵器　★：灰釉陶器　トーン：スス・タール付着範囲
　・黒色処理（濃）　砥石：砥面の範囲を示した。
4．土層説明中での記号、略称は次のとおりである。
　土層名称及び量の基準：新版標土色帖による。
　色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）
　しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし
　混入物の量　◎：大量（30～50％）　○：多量（15～25％）　△：少量（5～10％）
　　※：若干（1～3％）
　混入物　　ＲＰ：ローム粒子（溶け込んだ状態）　ＲＢ：ロームブロック（固まりの状態）
　　ＹＰ：板鼻黄色軽石
5．ピット・掘り方の深さ　○ 0～19cm　◎ 20～39cm　◎ 40～59cm　⊕ 60cm以上
6．遺物分布図凡例　10g　100g　1000g　土器部 ● ● ●　須恵部 ○ ○ ○　瓦（点数）＋

Ⅰ　調査の経過

1　調査に至る経過

平成６年11月、医療法人信愛会本多病院より老人保健施設建設に係る該当地域の照会があった。そこで、市教育委員会では遺跡台帳等で確認したところ、該当場所の一部が遺跡（市№434、437）の範囲内に含まれていることから、事業実施に先立ち確認調査を実施する必要がある旨を事業者に通知した。その後、事業者と協議を行い遺跡が影響を被る部分について発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。発掘調査は、事業者の依頼により安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長　安中市教育長）が実施することになり、平成７年２月、事業者と埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

2　調査の経過

確認調査は平成７年２月20日から同年２月25日までの間実施した。確認調査は事業区域内に２m幅のトレンチを斜面に沿って９本設定し、バックホーにより遺構確認面まで掘削し、遺構の有無について確認作業を実施した。調査の結果、１トレンチ及び５、６トレンチから平安時代の住居址、１、２、４トレンチから縄文時代と平安時代の断層（地割れ）及び亀裂が検出された。本調査は平安時代の住居址が発見された場所を中心に調査区を２カ所（西側と東側）設定し、断層については２トレンチと４トレンチにおいて地質調査を実施した。

本調査は平成６年２月27日から同年３月７日までの間実施した。調査の結果、平安時代の住居址７軒、土坑１基を検出した。

遺物整理及び報告書作成は発掘調査終了後より平成18年２月28日まで断続的に実施した。遺物整理は遺物の洗浄・注記→接合・復元→実測・拓本・トレース→写真撮影の手順で行い、並行して遺構図の修正・素図の作成、トレース及び各種図版作成、写真整理を行った。なお、遺物整理（遺構トレース、遺物実測図、遺物観察表）及び図版作成の一部については市史編さん事業（平成12～13年度）において実施した。

（井上慎也）

Ⅱ　調査の方法

発掘調査は原則的には安中市で実施している調査方法及び手順で行った。調査区とグリッドはは建物予定地を基準にして設定した。１グリッドは４m×４mで北西隅を基点とし、北から南へアルファベットでA、B、C…、西から東へ算用数字で１、２、３…と呼称することにした。なお、グリッドの国家座標への取付は行っていない。

発掘調査は、まず、バックホーにより表土を掘削し、その後、人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構については順次精査を行った。遺構の記録及び遺物出土位置の一部は平板測量で行った。土層断面図は「ビニール転写法」を用いて行った。住居址の精査及び遺物の取り上げでは、「分層16分割法」で精査した。遺物は各遺構、層位毎に取り上げて記録した。遺構の土層断面及び全景の写真撮影を行った。

遺物整理では各種遺構の平面図、土層断面図、遺構断面図、観察表、必要に応じて遺物重量分布図（16分割）を作成した。各種遺物については実測図と観察表を作成した。トレース及び図版編集の一部にはパソコン、スキャナー等のデジタル情報処理機器を利用して作業を行った（OS：Microsoft WindouwsXP　主な使用ソフト：（株）ジャストシステム一太郎12・花子９・三四郎９及びAdobe Illustrator9.0・Photoshop Elements）。

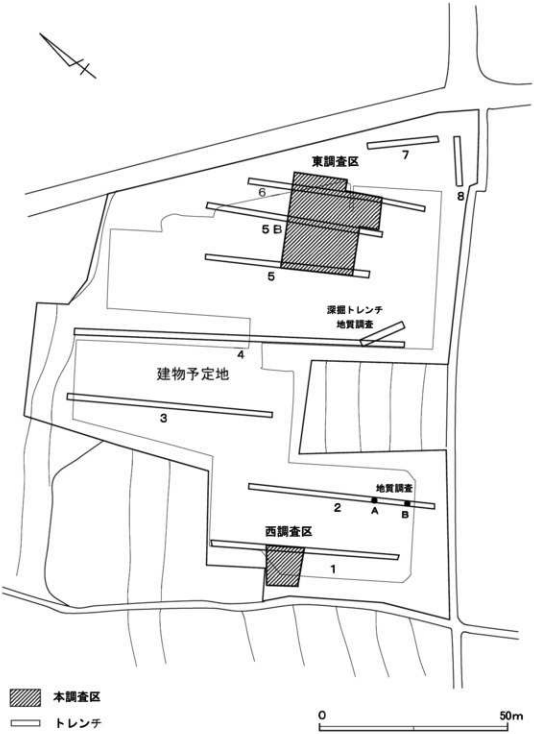
（井上慎也）

Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境

１　地理的環境

本遺跡は碓氷川南岸の上位段丘（横野台地）に位置する。台地の東側は天神川によって開析され、北東方向へ延びる舌状台地を形成している。この台地の中央を小河川が縦断して谷地を形成している。谷地には湧水点が存在する。また、この地域は、縄文時代早期頃の地震により、地表面には断層により凹凸のある複雑な地形が形成されている。本遺跡は、谷地の東側で台地東端に延びる小高い尾根状の丘陵の緩斜面に位置している。遺跡地の標高は220.5～222.5mである。

（井上慎也）



第1図　トレンチ位置と調査区設定図

2　歴史的環境

本遺跡は平安時代の集落遺跡である。本遺跡の南側丘陵の最上部には前期古墳及び平安時代の住居址が検出された日向後原遺跡、東には古墳時代の豪族の居宅の堀と推定される遺構が検出された蔵畑遺跡と弥生時代後期～平安時代の住居址が検出された下原・賽神遺跡、西には平安時代の集落が検出された道前久保遺跡、北西には弥生時代後期～古墳時代後期まで継続する集落が検出された諏訪ノ木遺跡がある。本遺跡を含めた周辺遺跡は互いに補完関係にあるため「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」として捉えられる。

断層（地割れ）及び亀裂は本遺跡をはじめ、蔵畑遺跡、下原・賽神遺跡、諏訪ノ木遺跡、山峰遺跡、道前久保遺跡等で確認されており、間仁田地区では縄文時代から平安時代の間までに数回の地震発生が確認されている。

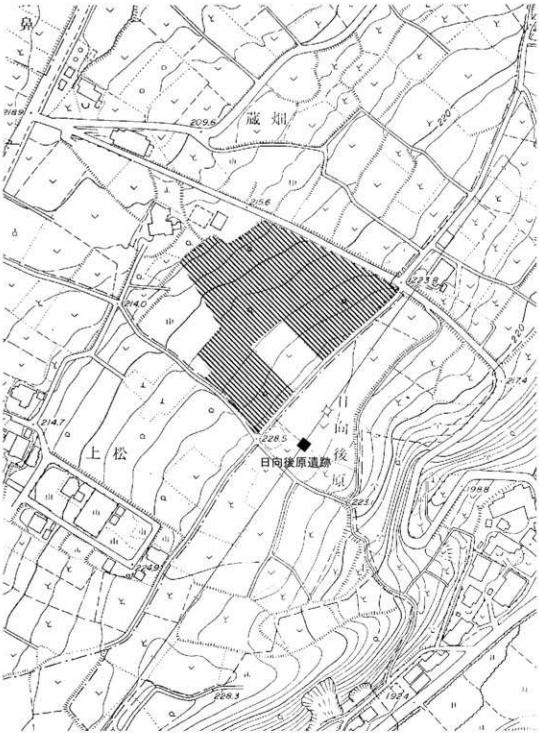
（井上慎也）

Ⅳ　層序

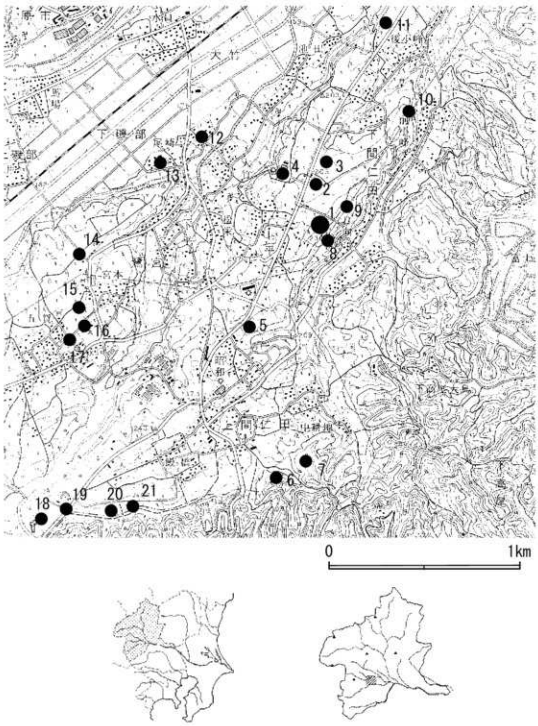
本遺跡での基本層序は第４図のとおりである。南西に傾斜するが、土層の堆積はこの地域の堆積状況と一致する。１、２、４トレンチでは縄文時代と平安時代の地震跡と思われる断層（地割れ）及び亀裂を検出した。なお、本遺跡での断層（地割れ）については、地質調査の結果を参照されたい。

本遺跡が存在する間仁田地域では、広い範囲で断層及び地割れが確認されている。これらの断層（地割れ）は上部ローム層で表層地滑り的（正位）に地層が破断されたものである。同様な地割れ（断層）は、道前久保遺跡（縄文時代と平安時代）、蔵畑遺跡（古墳時代以前）、諏訪ノ木遺跡（奈良時代以降）、下原・賽神遺跡（縄文時代と平安時代）でも確認されており、本遺跡周辺に集中している傾向が認められる。本遺跡でも少なくとも２回の断層を確認されており、地層、遺構との切り合い関係、出土遺物から、恐らく縄文時代と平安時代の地震の痕跡と推定される。下原・賽神遺跡では地面の陥没と隆起、液状化現象といった地震発生に伴う地形の変化が観察されている。また、隣接する蔵畑遺跡、北にある諏訪ノ木遺跡、東にある道前久保遺跡では地震に伴う亀裂跡が確認されている。さらに、蔵畑Ⅱ遺跡の南、北上平地区の試掘調査でも、大規模な断層が確認されている。蔵畑Ⅱ遺跡の断層（地割れ）は、地割れの方向、地質の状態から、東にある下原・賽神遺跡のものと同じものと考えられる。

（井上慎也）



第２図　遺跡位置図（1/2,500）

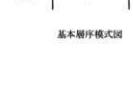


第3図　周辺遺跡分布図

	遺跡名	旧	縄文					弥生		古墳				奈良	平安	中世	断層	備考
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後	終				
1	蔵畑Ⅱ											○			◎		○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
2	蔵畑										◎	◎					○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
3	下原・賽神									◎	○	○	◎				○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
4	諏訪ノ木									◎		○	◎				○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
5	道前久保・同Ⅱ				◎	◎	◎								◎	◎	○	蔵畑・諏訪ノ木遺跡群
6	経塚古墳											◎						石製模造品
7	天王山城															◎		山城
8	日向後原										◎				○		○	周溝墓・平安集落
9	野毛良										＊		○	○	○			
10	山峰				○	＊				○								
11	三本松								＊									東海系壺出土
12	座光寺館址															◎		
13	尾崎館址															◎		
14	荒神平・吹上			△	◎	○				◎	◎	○	◎	◎	◎			鷲宮地区遺跡群
15	上ノ久保				◎	○				◎			◎	◎	◎	○		鷲宮地区遺跡群
16	桜林														◎			鷲宮地区遺跡群
17	五ヶ														◎			鷲宮地区遺跡群
18	注連引原				◎			△	◎									弥生集落
19	注連引原Ⅱ	＊			◎	＊	△	△	◎	△	◎				○	△		弥生集落・古代牧
20	大上					○			◎						△			弥生集落
21	日影														△			

◎：大規模な遺跡（集落跡・古墳等）　○：中規模な遺跡（住居址等）
△：小規模な遺跡（土坑・溝等）　＊：遺物が出土した遺跡

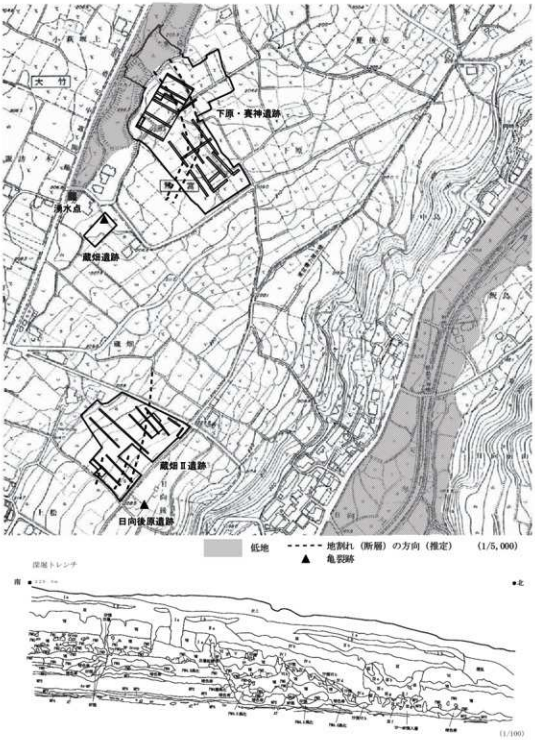
第１表　遺跡一覧



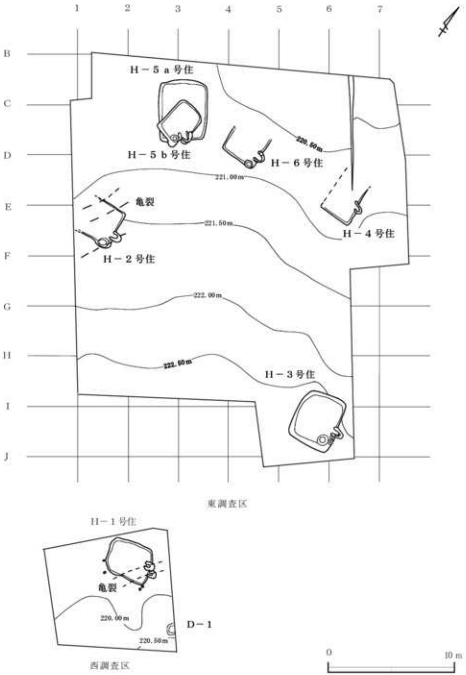
基本層序模式図

層名	色調	しまり	粘性	混合物					備考
				RP	RB	YP	As-A	As-B	
Ⅰa　黒褐色土層		△	△				○		
Ⅰb　灰白色軽石層	Ⅰa＜Ⅰb	×	×				◎		A純層
Ⅱa　黒色土層	Ⅰb＞Ⅱa	△	○					○	
Ⅱb　灰褐色軽石層	Ⅱa＜Ⅱb	×	×					◎	B純層
Ⅲ　黒色土層	Ⅱb＞Ⅲ	△	○						
Ⅲb　黒色土層	Ⅲ＜Ⅲb			＊					
Ⅲc　黒色土層	Ⅲb＜Ⅲc			△					
Ⅲd　暗褐色土層	Ⅲ＜Ⅲd			△					
Ⅲe　黒色土層	Ⅲc＜Ⅲe			△					
Ⅲf　褐色土層	Ⅲc＜Ⅲf			○					
Ⅲg　黄褐色土層	Ⅲf＜Ⅲg			◎					
Ⅳ　暗褐色土層	Ⅳa＞Ⅳ	○	○	＊					
Ⅳb　暗褐色土層									
Ⅳc　暗褐色土層	Ⅳc＜Ⅳb								
Ⅳd　暗褐色土層	Ⅳc＜Ⅳd			△		△			
Ⅳe　黄褐色土層	Ⅳd＜Ⅳe			◎		◎			
Ⅳf　黄褐色土層	Ⅳd＜Ⅳf			◎		◎			
Ⅴ　暗褐色土層	Ⅳ＜Ⅴ	◎	◎	◎	◎				
Ⅵ　黄褐色軽石層	Ⅴ＜Ⅵ	×	×			◎			YP純層
Ⅶb　黄褐色軽石層						◎			YP二次堆積
Ⅶ　黄褐色土層									ハードローム
Ⅷ　板鼻褐色軽石層									BP純層
Ⅸ　暗褐色土層									暗色帯
Ⅹ　栗田軽石層									MP純層
AT　姶良丹沢火山灰									

第４図　基本層序柱状図



第５図　蔵畑Ⅱ遺跡周辺における断層の位置と断層断面図



第６図　蔵畑Ⅱ遺跡全体図

Ⅴ　遺構と遺物

1　遺跡の概要

平安時代の住居址７軒（Ｈ－５号住居址は２軒分）、古代末～中世の土坑１基が検出された。住居址の主軸は６軒が同じ東方向を向く規則性が認められた。出土遺物の時期から９世紀後半から10世紀にかけてほぼ同時期に構築された住居址で、短期間に展開した小規模集落である。主な出土遺物ではＨ－３号住居址から、石帯、墨書付扁平礫、灰釉陶器、瓦が出土した。墨書土器はＨ－１号住居址、Ｈ－２号住居址、Ｈ－５a号住居址と遺構外から出土した。墨書には、「山万」、「山人万」、「奉」等の文字が確認できた。出土遺物の性格から、この集落付近に寺院あるいは官衙的施設の存在が推定される。また、本遺跡では過去の地震によると推定される断層（地割れ）と破断した地層が多数確認された。

（井上慎也）

2　平安時代の遺構と遺物

（1）遺構

1．住居址（第７図～第12図・第２表）

Ｈ－１号住居址（第７図）

西調査区で確認された。平面小形長方形で、住居外にピットが多数存在する。竈は住居東辺中央に２基構築され、一つは袖石が抜き取られている。竈の遺存状態は悪く、構造は浅い掘り込みが残るのみである。掘り方は、竈付近に掘り込みが顕著で、壁際に溝状の遺構と多数のピットが認められた。床面には地震による亀裂（地割れ）が検出された。遺物は住居址の西半分と竈及びその周辺に集中する。「山人万」と墨書された須恵器が出土した。

Ｈ－２号住居址（第８図）

東調査区北西で確認された。住居址西側は斜面により削平されていたが、平面小形長方形と推定される。竈は住居址東辺南寄りに構築されている。竈の遺存状態は悪く、掘り込みのみを確認した。土坑は竈脇に１基と別に１基検出された。掘り方では竈手前に浅い土坑が検出された。また、床面には亀裂（地割れ）が検出された。遺物は住居址西半分と竈内で須恵器を主体とし多数出土した。竈右脇では完形の須恵器坏・椀が15点以上遺棄された状態で出土した。「山万」等の文字が墨書された須恵器が出土した。

Ｈ－３号住居址（第９図）

集落の一段高い場所に存在する住居址である。平面小形長方形であるが、他の住居址より規模が大きい。住居址東辺南寄りに竈が構築されている。竈の遺存状態は良好で、竈内で支脚の礫、竈の奥部（煙道）では構築材として布目瓦が出土した。土坑は竈右脇で検出された。掘り方では床面に浅い掘り込みと多数のピットが検出された。遺物は住居址のほぼ全域、竈内、掘り方で出土した。須恵器、土師器の他、石帯（銙尾）や墨書付扁平礫、灰釉陶器、鉄、布目瓦が出土した。

Ｈ－４号住居址（第10図）

東調査区北東で確認された。住居址北側は斜面ににより削平されていたが、平面小形長方形と推定される。竈は住居址東辺南寄りに構築されている。竈の遺存状態は悪く、張り出し部分のみを確認した。掘り方は床全体で浅い掘り込みが検出された。遺物は竈及び土坑で少数出土した。

Ｈ－５ａ号住居址（第10図）

東調査区東で確認され、Ｈ－５ｂ号住居址（古）と重複するが、本住居址が新しい。平面中形長方形で掘り込みがしっかりとしている。本住居址のみ他の住居址とは主軸が異なる。竈は住居址南東辺中央に構築されている。竈は袖部が残る。遺物は住居址中央及び竈周辺で多数出土した。須恵器（坏・椀・甕類）と土師器（甕類）の他、布目瓦、墨書土器も出土した。

Ｈ－５ｂ号住居址（第11図）

平面小形長方形で住居内には主柱穴はみられない。住居址東辺南寄りに竈が構築されている。竈は掘り込みのみ確認されたが、支脚の礫が出土している。竈右脇で土坑が検出された。掘り方は床全体で浅い掘り込みが確認された。遺物はほぼ全域と掘り方からも多数出土した。須恵器、土師器の他、砥石、刀子が出土した。

Ｈ－６号住居址（第12図）

東調査区北で確認された。北側は斜面により削平されていたが、平面小形長方形と推定される。竈は住居址東辺南寄りに構築されている。竈の遺存状態は悪いが、袖石と支脚の礫が検出された。竈内から布目瓦が出土している。竈右脇では土坑が検出された。掘り方は床面全体を広く掘り込んだところに５基のピットが検出された。遺物は北半部と竈で多数出土した。須恵器、土師器の他、鉄、砥石、布目瓦が出土した。

２．土坑

Ｄ－１号土坑（第12図）

西調査区で半分のみ検出した。平面楕円形と推定されるが性格は不明である。覆土に浅間Ｂ軽石を混入していることから古代末期～中世の所産と考えられる。

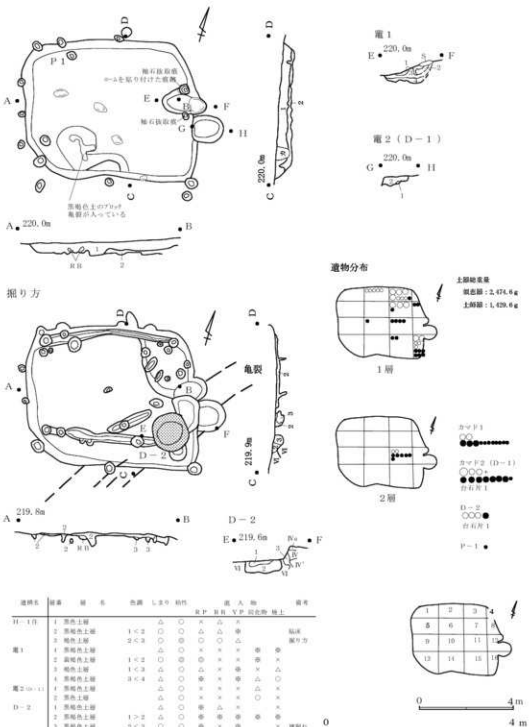
（飯田陽一・井上慎也加筆）

住居名	平面形態	規　模			貼床	主軸方向	土　坑		主柱穴	竈・炉址		備　考
		長軸	短軸	深さ			竈脇	床下		位置	構造	
H－1	小形長方形	3.68	2.84	0.24	○	N－75°－E			無	東/中央に2カ所	A掘込	壁際にピット（柱跡）。亀裂跡
H－2	小形長方形	(3.40)	3.40	0.22	△	N－80°－E	右	D2	無	東/南寄	A掘込	竈周辺で須恵器坏等が多数出土。亀裂跡
H－3	中形長方形	3.84	4.71	0.52	○	N－74°－E	右		無	東/南寄	C袖に瓦も転用	石帯、扁平墨書石製品、墨書土器等出土。
H－4	小形長方形	(2.40)	(3.60)	0.36	無	N－91°－E			無	東/南寄	A掘込	
H－5a	中形長方形	4.81	3.91	0.28	無	N－140°－E			無	南東/中央	A掘込み	重複
H－5b	小形長方形	2.41	3.31	0.21	○	N－96°－E	右		無	東/南寄	不明	重複
H－6	小形長方形	3.51	(3.40)	0.26	○	N－83°－E	右		無	東/南寄	B掘込	

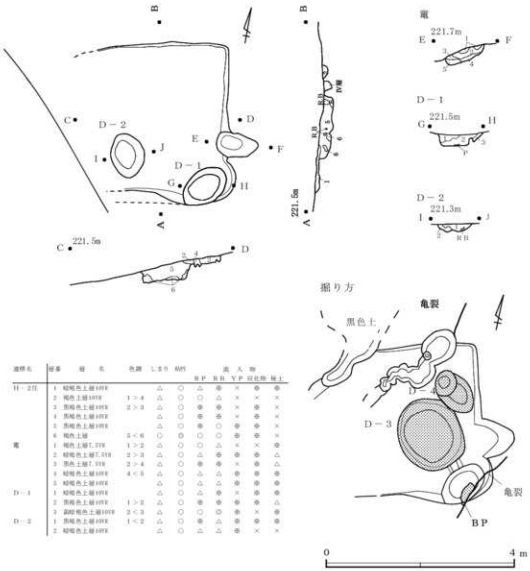
（　）は推定値

凡例
平面状態　大形：6m以上　中形：4～6m　小形：4m以下
竈構造　A：ローム＋黒色土　B：ローム＋黒色土＋袖芯河川礫　C：ローム＋黒色土＋河川礫
D：地山削り出し＋ローム＋袖芯河川礫　E：地山削り出し＋ローム＋袖粘土

第2表　住居址観察表

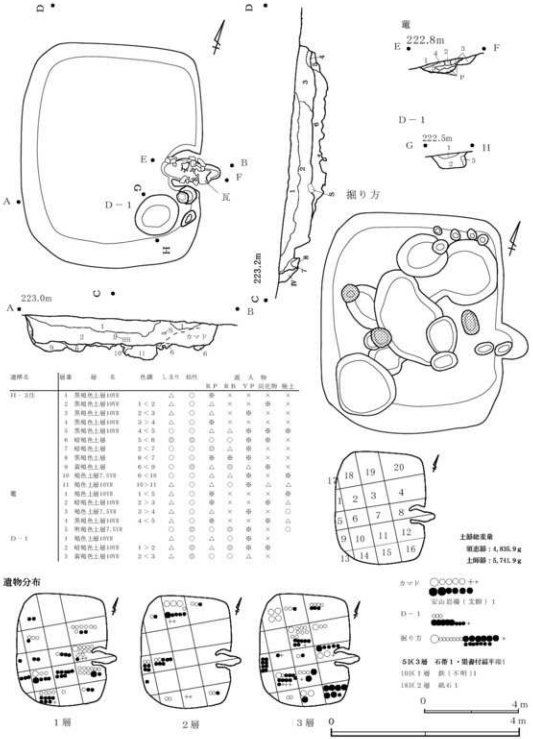


第７図　Ｈ－１号住居址実測図



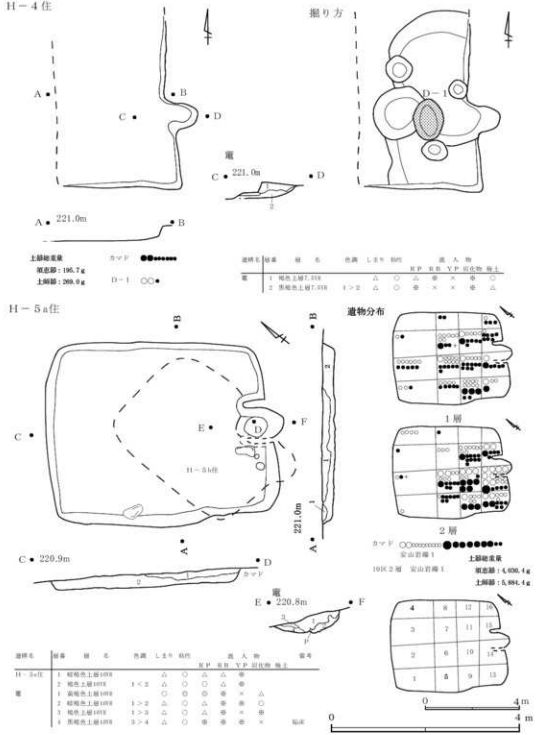
遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	流入物 BP	BB	YP	炭化物	焼土
H－2住	1	暗褐色土層10YR		△	○	△	●	×	●	●
	2	暗色土層10YR	1＞4	△	○	○	△	×	×	×
	3	黒褐色土層10YR	2＞3	△	○	●	●	×	●	×
	4	黒褐色土層10YR		△	○	●	●	×	●	×
	5	黒褐色土層10YR		△	○	●	○	●	●	×
	6	暗色土層	5＜6	○	●	○	○	●	●	×
竈	1	暗色土層7.5YR	1＞2	△	○	○	△	×	×	●
	2	暗褐色土層7.5YR	2＞3	△	○	△	●	●	●	△
	3	黒色土層7.5YR	2＞4	△	○	●	●	×	●	△
	4	暗褐色土層10YR	4＜5	△	○	△	△	△	●	●
	5	暗褐色土層10YR		△	○	△	△	●	●	●
D－1	1	暗褐色土層10YR		△	○	△	●	×	●	●
	2	黒褐色土層10YR	1＞2	△	○	●	●	●	●	△
	3	黒褐褐色土層10YR	2＜3	△	○	○	●	●	×	●
D－2	1	黒褐色土層10YR	1＜2	△	○	●	△	●	●	●
	2	暗褐色土層10YR		△	○	△	△	●	×	×

第８図　Ｈ－２号住居址実測図

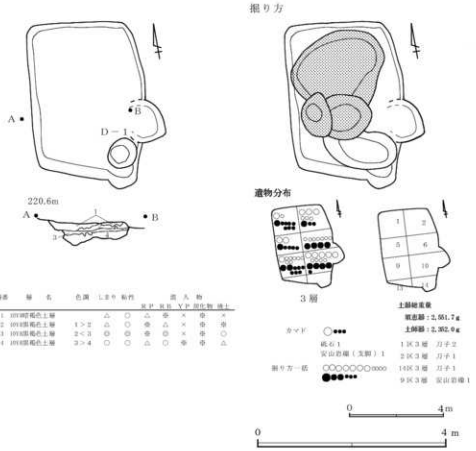


遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	炭化物	焼土
H－3号	1	黒褐色土層10YR		△	○	●	×	×	×	×
	2	黒褐色土層10YR	1＜2	△	○	△	×	×	●	×
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	△	○	△	×	●	×	×
	4	黒褐色土層10YR	3＞4	△	○	●	×	×	×	×
	5	黒褐色土層10YR	4＜5	○	○	△	△	△	●	●
	6	暗褐色土層	5＜6	●	●	○	○	○	●	×
	7	暗褐色土層	3＜7	○	○	●	△	●	×	×
	8	黒褐色土層	8＜7	○	○	●	●	●	×	×
	9	黒褐色土層	6＜9	○	●	△	●	△	●	×
	10	暗色土層7.5YR	6＜10	○	○	△	△	△	●	×
	11	暗色土層10YR	10＞11	△	△	△	△	○	●	△
竈	1	暗色土層10YR	1＜5	△	○	●	×	×	×	●
	2	暗褐色土層10YR	2＞3	△	○	●	×	×	●	△
	3	暗色土層7.5YR	3＞4	△	○	△	×	●	×	○
	4	黒褐色土層10YR	4＜5	△	○	●	×	×	●	△
	5	黒褐色土層7.5YR		○	●	○	○	●	×	○
D－1	1	暗色土層10YR		△	○	△	△	○	●	×
	2	暗褐色土層10YR	1＞2	△	●	△	○	●	●	●
	3	黒褐色土層10YR	2＜3	△	●	○	○	△	×	

第９図　Ｈ－３号住居址実測図

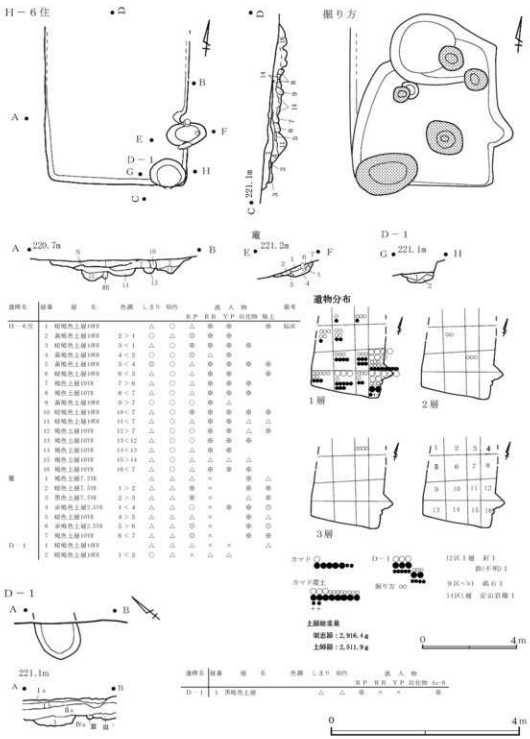


第10図　H－4号・H－5 a号住居址実測図



遺構名	層番	層名	色調	しまり	粘性	遺物				
						炭	P	鉄	Y P	焼石	物	地土
H－5 b住	1	10YR褐色土層		△	○	△	◎	×	◎	×
	2	10YR黒褐色土層	1＞2	△	○	◎	△	×	◎	◎
	3	10YR黒褐色土層	2＜3	◎	◎	◎	◎	×	◎	○
	4	10YR黒褐色土層	3＞4	○	○	△	○	◎	◎	△

第11図　H－5 b号住居址実測図



第12図　H－6号住居址・D－1号土坑実測図

（2）遺物

1．平安時代の土器（第13図～第20図・第３表～第７表）

７軒の住居址及びグリッドから土師器や須恵器、羽釜、灰釉陶器が出土した。復元可能な個体を図化した。土師器は甕や小型甕のみとなり、器種構成の主体は須恵器である。甕の表面調整は削り調整が多いが、Ｈ－３号住居址には轆轤整形のものがある。須恵器の器種としては坏、碗、高台付碗、高台付皿、壺がある。須恵器は轆轤整形で作られている。

ここで、胴部が削り整形で「コの字」状口縁のものを甕Ａ、胴部が削り整形でやや崩れた「コの字」状口縁のものを甕Ｂ、胴部が削り整形で「くの字」状口縁のものを甕Ｃ、轆轤整形の甕を甕Ｄとする。また、底部は平らで体部の立ち上がりに丸みをもつものを坏Ａ、上げ底気味で体部が直線的なものを坏Ｂ、体部が直線的で下半部が絞り込まれるようなものを坏Ｃ、体部が丸みを持ち口縁部が強く外反するものを坏Ｄ、体部がやや丸みを持って開き上げ底をもつものを坏Ｅ、体部がやや丸みをもって開くが坏Ｅより器高が浅いものを坏Ｆ、器高が深く体部が直線的に開くものを坏Ｇとする。碗部の体部の立ち上がりに丸みを持つものを高台付碗Ａ、碗部の体部がやや外反し上げ底を気味なものを高台付碗Ｂ、碗部の器高が深く体部が直線的に開くものを高台付碗Ｃ、碗部の器高が高台付碗Ｃよりもやや浅く体部が直線的に開くものを高台付碗Ｄ、碗部の体部の器高が深くやや丸みをもって開くものを高台付碗Ｅ、碗部の体部が直線的に開きやや浅いものを高台付碗Ｇとする。

［住居址出土の土器］

Ｈ－１号住居址の土器（第13図）　土師器甕Ａ、須恵器の坏Ｄ・高台付碗Ｃ・高台付碗Ｄ・高台付碗Ｂ・壺・羽釜が出土した。高台付碗Ｂに墨書（「山人万」または「岑」）がある。壺は胴部を削り調整を施している。壺の底部も出土しているが、やはり削り調整であり、高台はない。羽釜は轆轤整形である。

Ｈ－２号住居址の土器（第14・15図）　土師器甕Ａ・甕Ｂ・甕Ｃ、須恵器坏Ｂ・坏Ｃ・坏Ｄ・坏Ｅ・高台付碗Ｂ・高台付碗Ｄ・高台付碗Ｅ・高台付碗Ｇ・高台付皿が出土した。須恵器坏Ｅに墨書（「山万」または「岑」）があり、須恵器高台付碗Ｅにも墨書（「主」）がある。

Ｈ－３号住居址の土器（第16・17図）　土師器甕Ｂ・甕Ｃ、須恵器甕Ｄ、須恵器坏Ｂ・坏Ｇ・高台付碗Ｂ・高台付碗Ｃ・高台付碗Ｄ・高台付碗Ｅ、灰釉陶器が出土した。

Ｈ－４号住居址の土器（第17図）　須恵器高台付碗Ｅが出土した。

Ｈ－５ａ号住居址の土器（第18・19図）　土師器甕Ａ・甕Ｂ、須恵器坏Ａ・坏Ｆ・坏Ｃ、碗・高台付碗Ａ・高台付碗Ｄ・壺が出土した。須恵器碗（破片）に墨書（「工」）がある。須恵器高台付碗Ｄにも墨書があるが、文字部分が欠けているので解読できない。壺は轆轤整形であり、底部に

高台を付す。

H－5ｂ号住居址の土器（第19図）　土師器甕Ａ、須恵器坏Ｆ・坏Ｅ、高台付碗Ｄ・高台付碗Ｅ・高台付皿が出土した。

H－6号住居址の土器（第20図）　土師器甕Ｂ・甕Ｃ、須恵器坏Ｆ・坏Ｃ、高台付碗Ｅ・高台付碗Ｄ・高台付碗Ｃ・高台付皿が出土した。

グリッド出土の土器（第20図）　Ｄ－３グリッド周辺から出土した須恵器高台付皿には墨書（「山万」または「岑」）がある。また、Ｇ－５グリッドから出土した須恵器坏Ｃは表面黒色処理が施されている。

２．瓦（第21・22図・第７表）

Ｈ－１号住居址、Ｈ－３号住居址、Ｈ－６号住居址から出土した瓦を図化した。Ｈ－１号住居址Ｄ－１号土坑から出土した瓦は丸瓦の破片であるが、上面に刻書（「人」）があり、下面は布目がある。Ｈ－３号住居址竈から出土した平瓦は火を受けた様子なので、竈の補強で使用されたと推測される。Ｈ－６号住居址から出土した丸瓦は玉縁がついている。

３．鉄製品（第23図・第８表）

Ｈ－５ｂ号住居址Ｉ区３層、２区３層及び14区３層から刀子が４点出土した。Ｈ－６号12区１層から出土した鉄製品は器種が不明であるが、中央に孔がある。

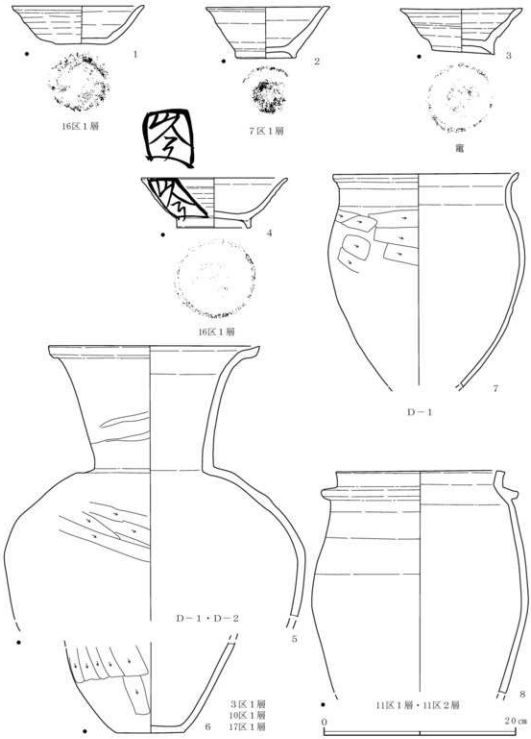
４．石製品（第23図・第８表）

砥石　Ｈ－３号住居址、Ｈ－５ｂ号住居址、Ｈ－６号住居址から砥石が出土した。材質はＨ－３号住居址とＨ－５ｂ号住居址が安山岩、Ｈ－６号住居址が流紋岩である。Ｈ－５ｂ号住居址のものは敲打痕があるので、敲石に転用されていると推定される。

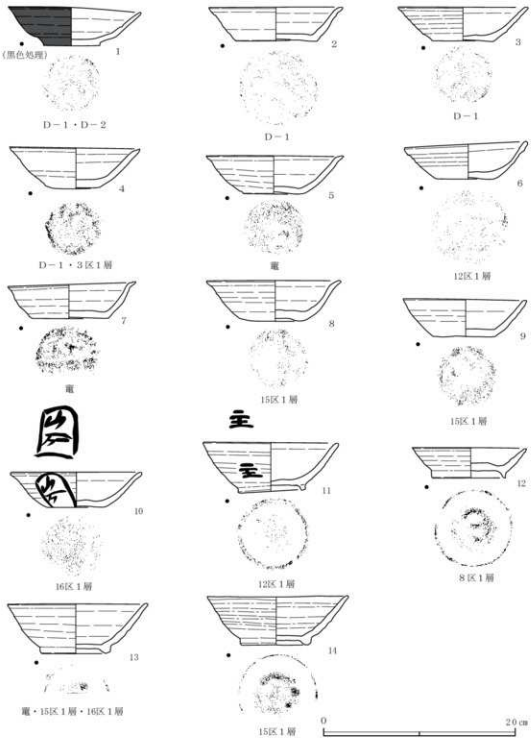
墨書付扁平礫　Ｈ－３号住居址５区３層から出土した。材質は凝灰岩で、棒状の表・裏に「奉」という墨書がある。表面は自然面であるが、裏面はうち欠いて平らにしたと見られる。類例がないが、裏表両面に「奉」という文字があることから信仰的な性格が推測される。

石製鉈尾　Ｈ－３号住居址５区３層から出土した。材質は硬質頁岩で、表面には２対の孔が３箇所穿たれているが、裏面には貫通していない。裏面は丁寧に磨かれている。これと材質と形態が類似しているものが長根羽田倉遺跡第29号住居跡や戸神諏訪遺跡65号住居跡から出土しているが、特に長根羽田倉遺跡第29号住居跡出土しているものは表面に孔が三箇所対であることや裏面が丁寧に磨かれている点など共通点が多い。

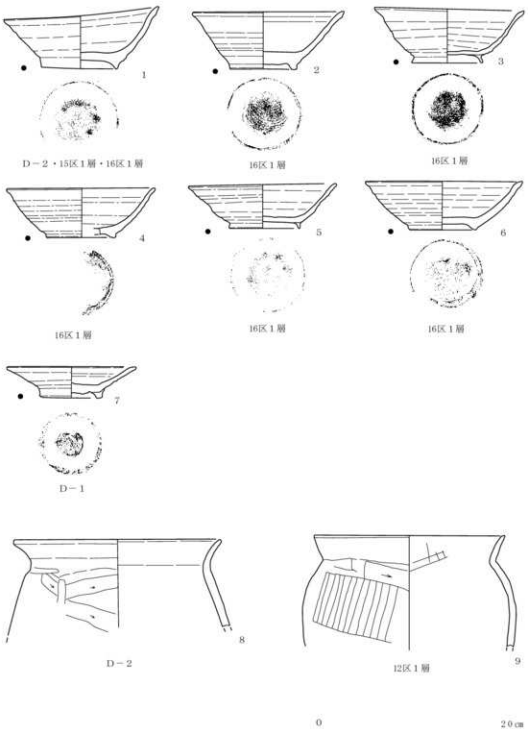
（深町　真）



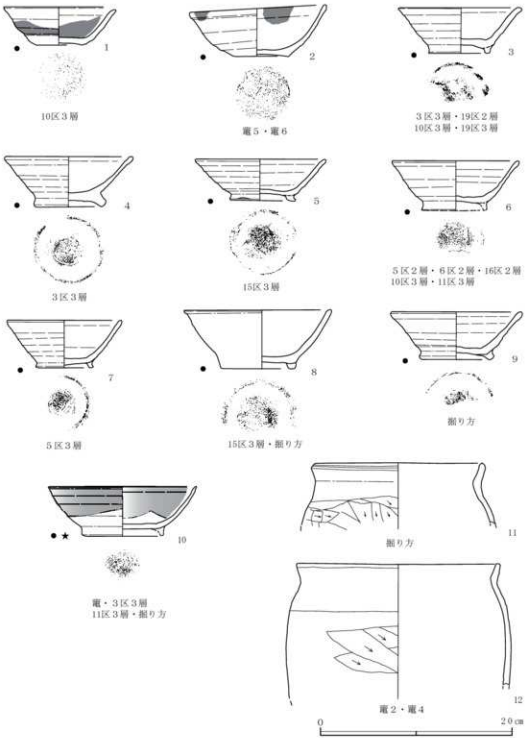
第13図　Ｈ－１号住居址出土の土器実測図



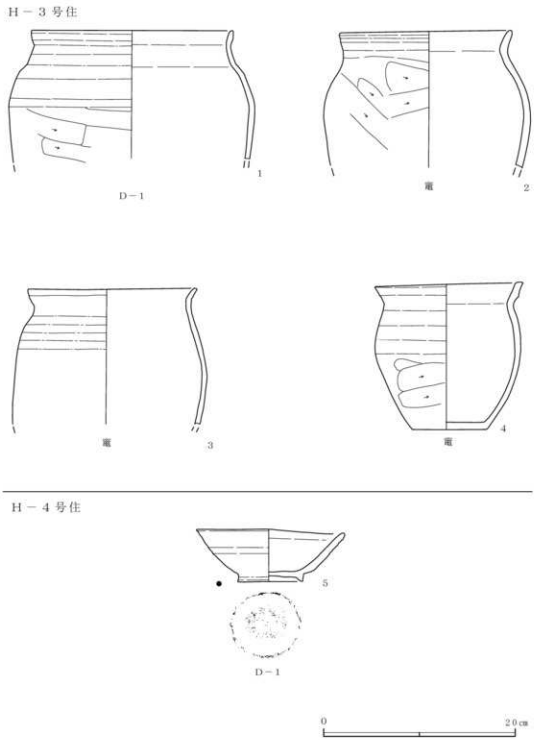
第14図　H－2号住居址出土の土器実測図（1）



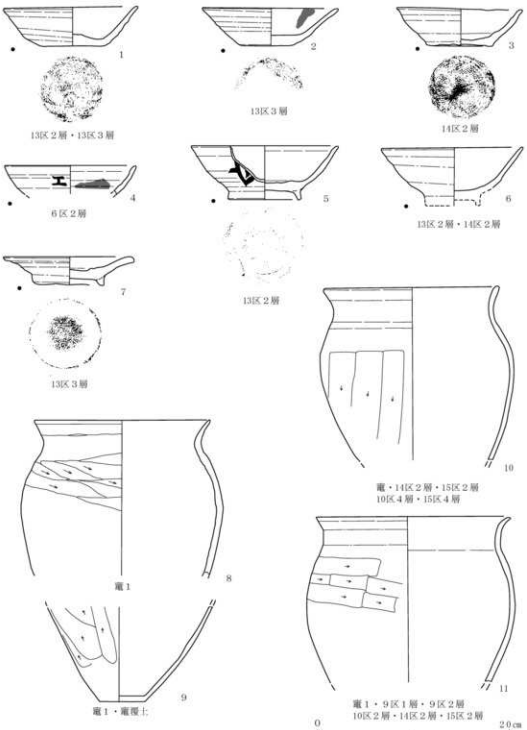
第15図　H－２号住居址出土の土器実測図（２）



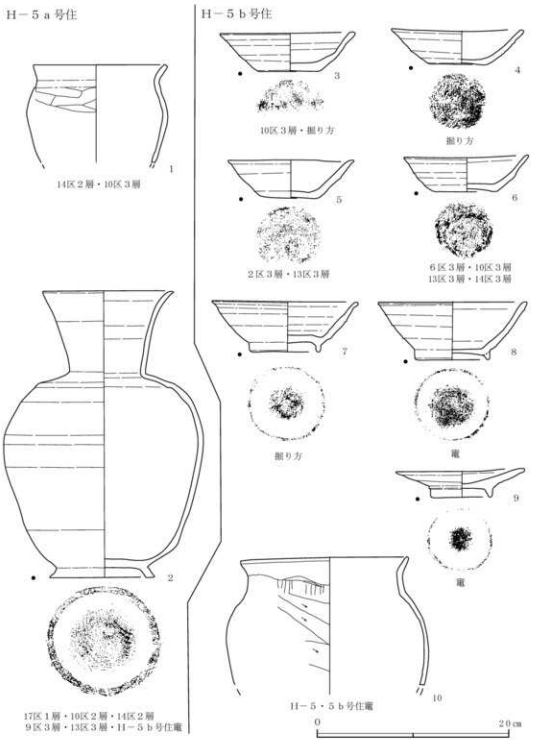
第16図　H－３号住居址出土の土器実測図



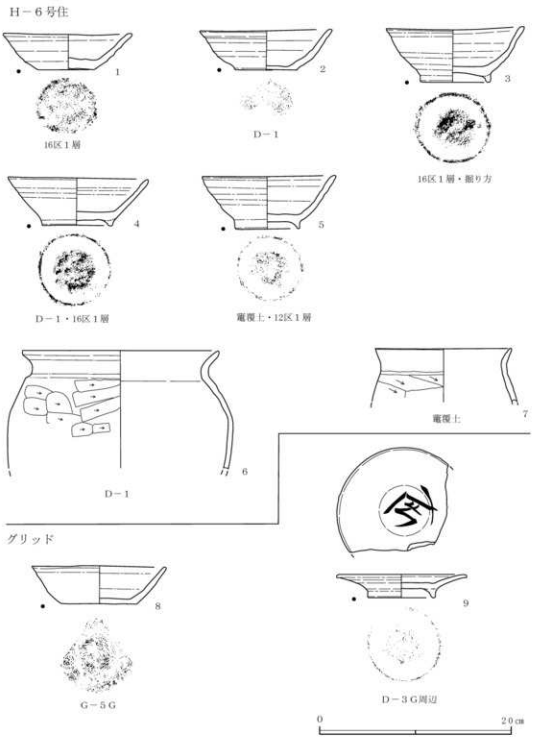
第17図　H－3号・H－4号住居址出土の土器実測図



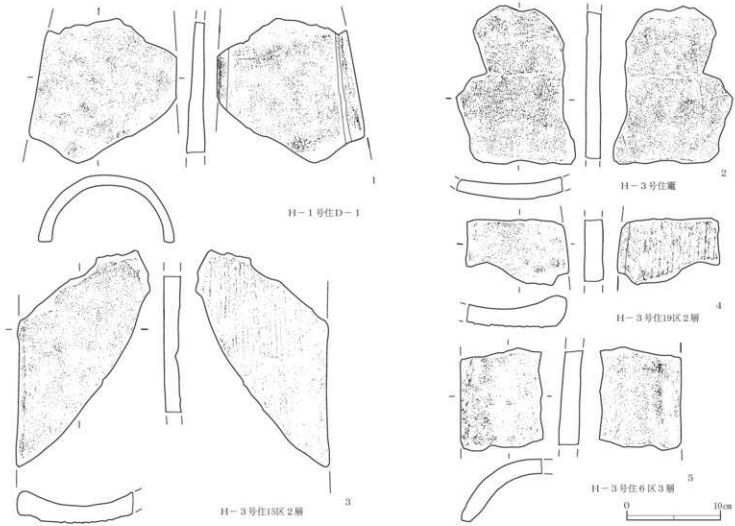
第18図　Ｈ－５a号住居址出土の土器実測図



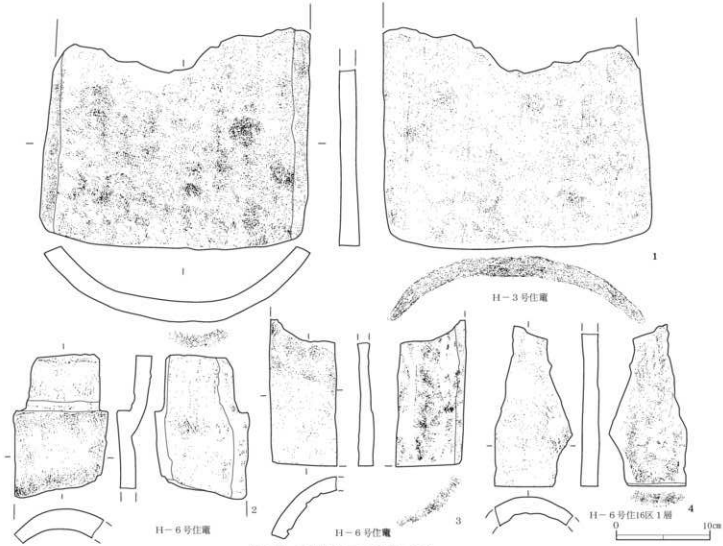
第19図　H－５a号・H－５b号住居址出土の土器実測図



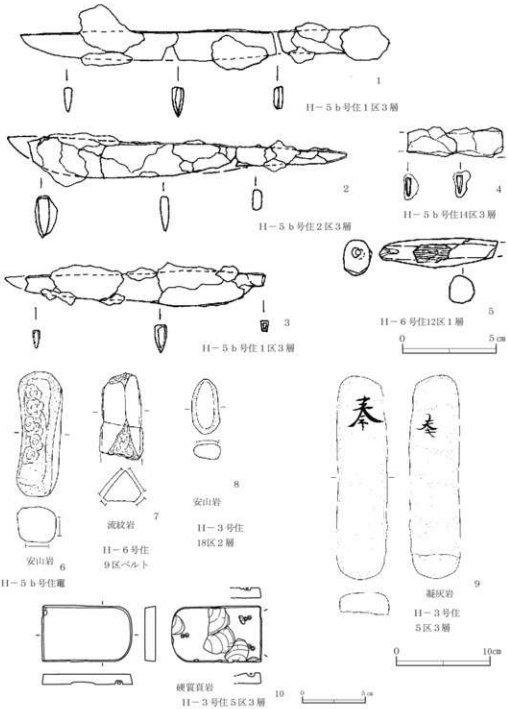
第20図　H－6号住居址・グリッド出土の土器実測図



第21図　平安時代の瓦実測図（1）



第22図　平安時代の瓦実測図（2）



第23図　平安時代の鉄製品・石製品実測図

挿図No.	番号	出土位置			土器種別	器種	法量（cm）			①焼成、②色調③胎土			遺存状態	成形・整形技法の特徴			備考
		遺構名	区	層			口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土		外面調整	内面調整	底部	
13図	1	H－1号住	16	1	須恵器	坏D	13.9	6.3	4.1	還元、焼、良好	黄灰色	砂粒	口縁～底部(19/20)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転糸切り痕	
	2	H－1号住	7	1	須恵器	高台付椀C	(13.6)	(6.3)	5.4	酸化、焼、良好	灰白色	砂粒	口縁～高台(2/5)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転ヘラ切り	
	3	H－1号住	竈		須恵器	高台付椀D	12.9	7.2	5.2	酸化、焼、やや軟	浅黄橙色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(7/10)	横撫で（左回転）	横撫で（右回転）		
	4	H－1号住	16	1	須恵器	高台付椀B	15.8	5.3	5.3	酸化、焼、良好	明褐色	砂粒・細砂粒	口縁部～高台	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（右回転）		墨書「山人万」あるいは「岑」？
	5	H－1号住	D－1 D－2		須恵器	壺	22.2	－	26.1	還元、焼、良好	灰色	砂粒・細砂粒	口縁～胴部(1/4)	口縁～頸部轆轤撫で（左回転）、胴部削り	口縁部横撫で（右回転）、頸部研毛		
	6	H－1号住	17.10.3	1	須恵器	壺底部	－	6.8	9.7	還元、焼、良好	灰色	砂粒・細砂粒	胴部～底部(1/4)	胴部削り	横撫で		
	7	H－1号住	D－1		土師器	甕A	19.5	－	22.1	酸化、焼、良好	赤褐色	砂粒・細砂粒多量	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁～胴部磨き		
	8	H－1号住	竈.11	1.2	須恵器	羽釜	(17.9)	－	18.3	酸化、焼、良好	橙色	砂粒・細砂粒	口縁～胴部	口縁～頸部轆轤撫で（左回転）、胴部轆轤削り（左回転）	口縁部横撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
14図	1	H－2号住	D－1 D－2		須恵器	坏C	14.1	5.9	3.9	酸化、焼、良好	黒色	細砂粒多量	口縁～底部(4/5)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転糸切り痕	表面黒色
	2	H－2号住	D－1		須恵器	坏B	13.6	6.4	3.5	還元、焼、良好	暗灰色	砂粒・細砂粒	完形	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（右回転）	回転糸切り痕	
	3	H－2号住	D－1		須恵器	坏C	13.7	8.1	3.5	還元、焼、良好	灰色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(19/20)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転糸切り痕	
	4	H－2号住	D－1.3	1	須恵器	坏E	13.9	5.9	4.5	酸化、焼、やや軟	浅黄色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(8/10)	横撫で（左回転）	横撫で（右回転）		内面黒色
	5	H－2号住	竈		須恵器	坏B	14.3	6.1	4.1	還元、焼、良好	灰色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(9/10)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転糸切り痕	
	6	H－2号住	12	1	須恵器	坏B	12.9	5.9	4.0	酸化、焼、やや軟	黄褐色	砂粒・細砂粒	完形	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（右）	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（右）	回転糸切り痕	
	7	H－2号住	竈		須恵器	坏D	13.9	8.0	4.0	還元、焼、良好	灰色	細砂粒	口縁～高台(8/10)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転糸切り痕	
	8	H－2号住	15	1	須恵器	坏D	14.2	6.5	4.2	中性、焼、良好	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(9/10)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）	回転糸切り痕	
	9	H－2号住	15	1	須恵器	坏D	(13.8)	6.6	3.8	還元、焼、良好	灰色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(6/10)	轆轤整て（左回転）	轆轤整て（右回転）		
	10	H－2号住	16	1	須恵器	坏E	13.8	6.0	3.6	還元、焼、良好	灰色	細砂粒	完形	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（右回転）	回転糸切り痕	墨書「山万」あるいは「岑」？

第３表　土器観察表（１）

神図No.	番号	出土位置			土器種別	器種	法量（cm）			①焼成、②色調③胎土			遺存状態	成形・整形技法の特徴			備考
		遺構名	区	層			口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土		外面調整	内面調整	底部	
14図	11	H－2号住	12	1	須恵器	高台付碗	14.2	7.3	5.4	還元 焼、良好	明灰色	砂粒・雲母粒	完形	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	墨書「主」
	12	H－2号住	8	1	須恵器	高台付碗	(12.1)	7.7	3.1	中性 焼、やや軟	灰白色	雲母粒	口縁～高台（1/2）	横撫回転撫で（右回転）	横撫回転撫で（左回転）		
	13	H－2号住	電15.16	1	須恵器	高台付碗	(15.8)	(7.0)	5.9	中性 焼、良好	灰白色	砂粒・雲母粒	口縁～高台（2/5）	横撫回転撫で（左回転）	横撫回転撫で（右回転）	回転ヘラ切り	
	14	H－2号住	15	1	須恵器	高台付碗	14.9	7.4	5.1	還元 焼、良好	灰色	砂粒・雲母粒	口縁～底部（1/2）	横撫撫で（左回転）	横撫撫で（右回転）	回転糸切り痕	
15図	1	H－2号住	D－2、16.15	1	須恵器	高台付碗B	16.1	8.0	6.2	中性 焼、良好	灰白色	砂粒・雲母粒	口縁～高台（2/3）	横撫で（右回転）	横撫で（左回転）	回転ヘラ切り	
	2	H－2号住	16	1	須恵器	高台付碗B	15.0	(7.6)	5.4	還元 焼、良好	灰色	砂粒・雲母粒	口縁～高台（高台1/3）	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	
	3	H－2号住	16	1	須恵器	高台付碗B	15.6	7.4	5.6	中性 焼、やや軟	明灰色	砂粒・雲母粒	完形	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）		
	4	H－2号住	16	1	須恵器	高台付碗	15.7	7.4	5.3	還元 焼、良好	灰色	雲母粒	口縁～高台（1/2）	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）		
	5	H－2号住	16	1	須恵器	高台付碗B	15.4	7.9	4.5	還元 焼、良好	暗灰色	砂粒・雲母粒	完形	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	
	6	H－2号住	16	1	須恵器	高台付碗	(16.2)	(6.8)	5.0	還元 焼、良好	灰オリーブ色	砂粒・雲母粒	口縁～高台（2/5）	横撫撫で（左回転）	横撫撫で（右回転）		
	7	H－2号住	D－1		須恵器	高台付皿	13.6	6.7	3.2	中性 焼、やや軟	明灰色	雲母粒	完形	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	
	8	H－2号住	D－2		土師器	甕B	(21.9)	－	9.1	酸化 焼、良好	明赤褐色	砂粒・雲母粒	口縁～胴部	口縁～頭部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頭部～胴部磨き		
	9	H－2号住	12	1	土師器	甕C	(19.8)	－	12.3	酸化 焼、やや軟	橙色	雲母粒多量	口縁～胴部	口縁～頭部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頭部～胴部磨き		
16図	1	H－3号住	10	3	須恵器	坏B	12.0	5.4	3.6	酸化 焼、やや軟	浅黄橙色	雲母粒	口縁～底部（7/10）	横撫撫で（右回転）	横撫撫で（右回転）	回転糸切り痕	内外面に黒色物
	2	H－3号住	電5.電6		須恵器	坏G	14.3	5.7	5.0	中性 焼、良好	明褐色	砂粒・雲母粒	口縁～底部（2/3）	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	口縁部に黒色物
	3	H－3号住	3.10.19	3	須恵器	高台付碗D	13.0	(6.3)	4.5	中性 焼、やや軟	灰白色	砂粒・雲母粒	口縁～高台（1/2）	横撫撫で（左回転）	横撫撫で（右回転）		
	4	H－3号住	3	3	須恵器	高台付碗C	13.3	7.4	5.3	中性 焼、良好	明褐色	雲母粒	口縁～高台（2/3）	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	
	5	H－3号住	15	3	須恵器	高台付碗D	13.6	6.8	4.4	中性 焼	明褐色	砂粒・雲母粒	口縁～高台（19/20）	口縁部横撫で、胴部横位整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位整形（右回転）	回転糸切り痕	

第４表　土器観察表（２）

挿図No.	番号	出土位置			土器種別	器種	法量（cm）			①焼成、②色調③胎土			遺存状態	成形・整形技法の特徴			備考
		遺構名	区	層			口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土		外面調整	内面調整	底部	
16図	6	H－3号住	5	2	須恵器	高台付碗B	13.2	(7.0)	(5.2)	中性焔、良好	茶灰色	細砂粒	口縁～底部(2/3)、高台欠損	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（右回転）	回転ヘラ切り	
	7	H－3号住	5	3	須恵器	高台付碗D	12.0	6.0	5.0	中性焔、良好	褐色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(1/2)	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（右回転）		
	8	H－3号住	掘り方、15	3	須恵器	高台付碗E	15.2	(8.2)	4.6	酸化焔、やや軟	浅黄橙色	細砂粒	口縁～底部(2/5)	横撫撫で（左回転）	横撫撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	9	H－3号住	掘り方		須恵器	高台付碗D	13.6	7.8	5.0	中性焔、良好	明灰色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(1/2)	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（右回転）		
	10	H－3号住	3	3	灰釉陶器	高台付椀	15.6	(8.5)	(5.2)	良好	明灰色	緻密	口縁～底部(1/2)、高台欠損	横撫撫で（右回転）	横撫撫で（右回転）	回転ヘラ切り	
	11	H－3号住	掘り方		土師器	甕A	(18.0)	－	7.8	酸化焔、良好	明黄褐色	砂粒・細砂粒多量	口縁～胴部	口縁部横撫で（左回転）	口縁～胴部横撫で（右回転）		
	12	H－3号住	竈2		土師器	甕C	21.3	－	13.3	酸化焔、良好	浅黄橙色	砂粒多量	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
17図	1	H－3号住	D－1		土師器	甕D	20.7	－	13.8	酸化焔、良好	にぶい橙色	細砂粒多量	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部横撫で削り（左回転）	口縁～胴部磨き		
	2	H－3号住	竈		土師器	甕B	18.3	－	15.8	酸化焔、良好	赤褐色	細砂粒多量	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁～胴部磨き		
	3	H－3号住	竈		土師器	甕D	18.3	－	13.3	酸化焔、良好	黒褐色	砂粒	口縁～胴部	口縁横撫撫で、胴部横撫削り（左回転）	口縁横撫撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
	4	H－3号住	竈		土師器	小型甕D	15.7	7.8	15.8	酸化焔、良好	にぶい橙色	砂粒	口縁～底部(3/4)	口縁～胴部横撫撫で（左回転）	口縁～胴部横撫撫で（右回転）		底部に糊圧痕
	5	H－4号住	D－1		須恵器	高台付碗	15.5	6.9	4.8	中性焔、やや軟	灰白色	砂粒・細砂粒多量	口縁～高台(7/10)	横撫撫で（左回転）	横撫撫で（右回転）	回転糸切り痕	
18図	1	H－5a号住	13	2,3	須恵器	坏A	14.3	6.8	4.2	中性焔、良好	灰白色	砂粒・細砂粒多量	口縁～高台(9/10)	横撫撫で（左回転）	横撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	2	H－5a号住	13	3	須恵器	坏F	(14.3)	(5.5)	4.2	酸化焔、やや軟	明黄褐色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(2/5)	横撫撫で（左回転）	横撫で（右回転）		
	3	H－5a号住	14	2	須恵器	坏C	(13.2)	7.0	4.1	中性焔、良好	灰白色	底部に10mmの砂粒	口縁～底部(2/5)	横撫撫で（左回転）	横撫撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	4	H－5a号住	6	2	須恵器	碗？	(14.0)	－	(3.0)	中性焔、良好	明灰色	砂粒・細砂粒	口縁部破片	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（右回転）		墨書「工」
	5	H－5a号住	13	2	須恵器	高台付碗D	15.7	7.2	5.1	中性焔、良好	明灰色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(1/2)	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（左回転）	口縁部横撫で、胴部横位ヘラ整形（右回転）	回転糸切り痕	墨書（判読不能）

第５表　土器観察表（３）

神殿No.	番号	出土位置			土器種別	器種	法量（cm）			①焼成、②色調③胎土			遺存状態	成形・整形技法の特徴			備考
		遺構名	区	層			口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土		外面調整	内面調整	底部	
18段	6	H－5a号住	13.14	2	須恵器	高台付碗A	15.2	(5.9)	3.8	中性焔、良好	浅黄色	砂粒・細砂粒	口縁～胴部	口縁轆轤撫で（左回転）	口縁横撫で（右回転）		
	7	H－5a号住	13	3	須恵器	高台付皿	(13.8)	7.4	2.8	還元焔、良好	灰色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(1/2)	轆轤撫で（右回転）	横撫で（左回転）	回転糸切り痕	
	8	H－5a号住	竈1		土師器	甕B	(18.7)	－	15.2	酸化焔、良好	にぶい橙色	細砂粒	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
	9	H－5a号住	竈1、竈掘土		土師器	甕	－	4.6	10.5	酸化焔、良好	黄橙色	細砂粒多量	胴部～底部	胴部削り	撫磨き		
	10	H－5a号住	竈10、14.15	2.4	土師器	甕A	19.4	－	18.8	酸化焔、やや軟	にぶい橙色	砂粒・細砂粒	口縁～胴部	口縁～胴部上半横撫で（左回転）、胴部下半削り	横撫で（右回転）		
	11	H－5a号住	9、10、14.15、竈1	1.2	土師器	甕A	20.8	－	16.2	酸化焔、良好	明赤褐色	砂粒・細砂粒	口縁～胴部(1/6)	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
19段	1	H－5a号住	13.14	2.3	土師器	甕B	13.2	－	8.7	酸化焔、良好	橙色	細砂粒多量	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	撫磨き（右方向）		
	2	H－5a号住	10.14	2	須恵器	壺	13.8	11.3	30.7	中性焔、良好	灰白色	細砂粒多量	口縁～高台(2/5)	口縁～頸部轆轤撫で（左回転）、胴部削り	口縁～胴部横撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	3	H－5b号住	張り方、10	3	須恵器	坏F	(14.4)	6.7	4.1	酸化焔、良好	にぶい黄橙色	細砂粒	口縁～底部(2/5)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（左回転）	回転糸切り痕	
	4	H－5b号住	張り方		須恵器	坏F	13.8	6.1	3.8	還元焔、良好	灰色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(7/10)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	5	H－5b号住	13.2	3	須恵器	坏E	13.3	6.9	3.8	中性焔、良好	灰白色	細砂粒	口縁～底部(1/2)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	6	H－5b号住	13.14、10.6	3	須恵器	坏F	(13.6)	6.2	4.0	還元焔、良好	灰オリーブ色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(3/5)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	7	H－5b号住	張り方		須恵器	高台付碗D	(13.8)	7.4	5.5	中性焔、良好	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(1/2)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	8	H－5b号住	竈		須恵器	高台付碗E	15.7	7.9	6.5	中性焔、良好	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(19/20)	轆轤撫で（右回転）	轆轤撫で（左回転）		外面に煤付着
	9	H－5b号住	竈		須恵器	高台付皿	13.7	6.3	2.6	中性焔、良好	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(19/20)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（左回転）		
	10	H－5b号住	竈		土師器	甕A	19.1	－	14.0	酸化焔、良好	橙色	砂粒・細砂粒	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
20段	1	H－6号住	16	1	須恵器	坏F	13.6	6.0	4.0	酸化焔、やや軟	黄橙色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(19/20)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（右回転）	回転糸切り痕	

第6表　土器観察表（4）

挿図No.	番号	出土位置 遺構名	区	層	土器種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	①焼成、②色調③胎土 ①焼成	②色調	③胎土	遺存状態	成形・整形技法の特徴 外面調整	内面調整	底部	備考
20図	2	H－6号住	D－1		須恵器	坏C	(14.0)	(6.4)	4.2	還元 焔、良好	灰白	細砂粒	口縁～底部(1/3)	轆轤撫で（左回転）	轆轤撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	3	H－6号住	掘り方、16	1	須恵器	高台付瓶	14.8	7.6	5.7	中性 焔、やや軟	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(9/10)	轆轤撫で（右回転）	横撫で（右回転）	回転糸切り痕	
	4	H－6号住	D－1、16	1	須恵器	高台付瓶D	14.6	7.3	5.1	中性 焔、やや軟	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(9/10)	轆轤撫で（右回転）	横撫で（左回転）		
	5	H－6号住	電視土、12	1	須恵器	高台付瓶C	14.4	6.7	5.2	中性 焔、良好	灰白色	砂粒・細砂粒	口縁～高台(8/10)	轆轤撫で（左回転）	横撫で（右回転）		
	6	H－6号住	D－1		土師器	甕B	(20.9)	－	11.1	酸化 焔、良好	にぶい黄橙	細砂粒多量	口縁～胴部	口縁～頸部横撫で（左回転）、胴部削り	口縁横撫で（右回転）、頸部～胴部磨き		
	7	H－6号住	電視土		土師器	甕B	(13.6)	－	5.4	酸化 焔、良好	にぶい赤褐色	細砂粒	口縁～胴部	横撫で（左回転）、胴部削り	横撫で（右回転）、頸部～胴部硝毛		
	8	G5グリッド			須恵器	坏C	14.3	7.9	4.0	酸化 焔、やや軟	黒色	砂粒・細砂粒	口縁～底部(3/5)	轆轤撫で（右回転）	轆轤撫で（左回転）	回転糸切り痕	
	9	D3グリッド			須恵器	高台付皿	15.8	7.0	2.5	還元 焔、良好	明灰色	細砂粒	口縁～高台(3/5)	轆轤撫で（左回転）	口縁部横撫で、胴部轆轤整形（右回転）		墨書「山万」あるいは「岑」？

（ ）は推定値

挿図No.	番号	出土位置 遺構名	区	層	種別	器種	法量（cm） 長さ	幅	厚さ	①焼成、②色調③胎土 ①焼成	②色調	③胎土	遺存状態	成形・整形技法の特徴 上面調整	下面調整	側面調整	備考
21図	1	H－1号住	D－1		瓦	丸瓦	－	13.4	1.5	硬質	灰白色	緻密・砂粒・細砂粒・赤粒子・黒粒子	破片	撫撫で	布目痕		上面に刻書「入」
	2	H－3号住	竈		瓦	平瓦	－	－	1.5	軟質	黄橙色	細砂粒多量・白粒子・黒粒子	破片	撫撫で	布目痕		
	3	H－3号住	15	2	瓦	平瓦	－	－	2.2	軟質	灰白色	細砂粒多量・白粒子・石英	破片	撫糸文	布目痕		
	4	H－3号住	19	2	瓦	平瓦	－	－	2.7	硬質	灰白色	細砂粒多量・赤粒子・黒粒子	破片	撫糸文	布目痕		
	5	H－3号住	6	3	瓦	平瓦	－	－	1.8	硬質	灰色	細砂粒多量・黒粒子・赤粒子	破片	撫撫で	布目痕		
22図	1	H－3号住	竈		瓦	平瓦	－	28.1	1.8	軟質	黄橙色	細砂粒多量・黒粒子・白粒子	破片	撫撫で	布目痕		
	2	H－6号住	竈		瓦	玉縁付丸瓦	－	－	1.8	硬質	灰白色	黒細砂粒多量・緻密	破片	部分的に撫糸文	部分的に布目痕		
	3	H－6号住	電視土		瓦	平瓦	－	－	1.5	硬質	灰色	黒細砂粒多量・黒砂粒	破片	撫撫で	部分的に布目痕		
	4	H－6号住	16	1	瓦	丸瓦	－	－	1.6	硬質	明青灰色	黒細砂粒多量・緻密	破片	撫撫で	布目痕		

第７表　土器観察表（５）・瓦観察表

挿図No.	番号	遺構名	区	層	器種	形態	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
23図	1	H－5b号住	2	3	刀子	－	鉄製	<166.0>	20.0	5.0	55.0	両刃・3分割
	2	H－5b号住	1	3	刀子	－	鉄製	<194.0>	14.0	6.0	65.8	両刃・3分割
	3	H－5b号住	1	3	刀子	－	鉄製	<136.0>	14.0	6.0	36.4	両刃・2分割
	4	H－5b号住	14	3	刀子	－	鉄製	<49.0>	10.0	3.0	11.5	両刃・2分割
	5	H－6号住	12	1	不明	－	鉄製	<62.0>	14.0	13.0	26.6	中心に孔。内側に木質材が残る。
	6	H－6号住	9ベルト		砥石	棒状/断面三角形	流紋岩	<89.0>	43.0	33.0	170.0	微含しないが同一個体有
	7	H－3号住	18	2	砥石	楕円形	安山岩	55.0	26.0	17.0	39.4	
	8	H－5b号住	竈		砥石	棒状	安山岩	129.0	44.0	37.0	393.1	敲石に転用。敲打痕有
	9	H－3号住	5	3	墨書付扁平礫	棒状	凝灰岩	21.5	5.2	2.2	350.8	両面に墨書「奉」
	10	H－3号住	5	3	石帯	銙尾	硬質頁岩	7.0	4.4	0.8	60.4	色は黒色・3カ所に穿孔

＜　＞は残存値

第8表　鉄製品・石製品観察表

Ⅵ　成果と問題点

１．出土遺物について

蔵畑Ⅱ遺跡では７軒の住居址が調査された。このうち、住居址に重複関係があるのはＨ－５号住居址だけなので、出土土器から相対年代を推定するしかないが、土師器甕や須恵器坏・高台付碗からＨ－５号住居址→Ｈ－３号住居址・Ｈ－２号住居址・Ｈ－６号住居址（・Ｈ－４号住居址）→Ｈ－１号住居址という組列が推測される。ここで、Ｈ－５号住居址が９世紀後半、Ｈ－１号住居址が10世紀前半と推測される。従って、この集落は短期間継続した集落と考えられる。

また、Ｈ－３号住居址から出土した甕Ｄは、いわゆる「秋間型甕」で、榛名町の中里見中川遺跡５区８号住居跡、中里見原遺跡第２号住居跡・第６号住居跡・第11号住居跡・第17号住居跡・第18号住居跡・第22号住居跡・第25号住居跡・第31号住居跡・第32号住居跡・第42号住居跡・第39号住居跡・第45号住居跡・第48号住居跡・第49号住居跡・第50号住居跡・第53号住居跡・第56号住居跡、高崎市（旧箕郷町）の下芝五反田遺跡57号住・72号住・85号住、安中市の北原遺跡Ｈ－３号住居址、野村遺跡Ⅰ22（１）層、野村Ⅱ遺跡Ｈ－22号住居址、北原Ⅱ遺跡Ｈ－１号住居址、上ノ久保遺跡Ｈ－35号住居址、高崎市の剣崎稲荷塚遺跡15号竪穴住居跡にみられる。このように「秋間型甕」が広範な地域で出土していることから、秋間窯址群の活発な交易活動が推測される。

また、Ｈ－３号住居址から出土した石製鉈尾と類似した形状のものが出土している吉井町の長根羽田倉遺跡や沼田市の戸神諏訪遺跡は尾根上に立地する寺院につながる斜面に展開する村落遺跡であり、中里見原遺跡も石製鉈尾は出土しなかったが、尾根上に立地する寺院につながる斜面に展開する村落遺跡である。特に中里見原遺跡の住居址からは蔵畑Ⅱ遺跡と同様に瓦片も出土しており、また、立地的にも斜面に形成されている点が注目される。すなわち、蔵畑Ⅱ遺跡の近傍に寺院の存在が考えられる。

さらに、墨書土器や墨書付扁平礫や石製鉈尾の存在は、この集落に文字が使用できて官吏的な人物の存在を推測させるものである。とくにＨ－１号住居址・Ｈ－２号住居址・Ｄ３グリッド周辺で出土した「山万または岑」は同じ書体であり、同一人物もしくは直系親族によるものと推測される。また、墨書付扁平礫は、「奉」という文字から信仰に関係しているものだと考えられる。

（深町　真）

2．遺跡の性格について

ここでは、市史での所見をもとに遺跡の性格について考えていきたい。

本遺跡は、「和名抄」にある古代碓氷郡磯部郷の東、「石井郷」との境界あたりに位置する。本遺跡の集落は９世紀代を主体としており、この頃の集落は、碓氷川流域において集落規模が拡大する傾向が認められる（大工原1998等）。周辺地域での平安集落の在り方に目を向けると、蔵畑Ⅱ遺跡の東にある野殿地区遺跡群（「石井郷」：西殿遺跡・堀谷戸遺跡）、西にある大王寺地区遺跡群（新寺地区遺跡群）では９世紀の集落が形成される一方、鷺宮地区遺跡群の集落では９世紀代の集落では衰退する。また、中野谷地区遺跡群でも、小規模の集落が点在するものの集落の拡大が認められない。こうした要因は、集団の移動を意味し、その背景は社会変化への適応と捉えられ、農業技術の発達に伴う農地の拡大あるいは中野谷地区遺跡群に展開する大規模「牧」経営が要因として上げられる（大工原1998）。さらに「磯部郷」は鉄生産に係わる「郷」として考えられており、こうした背景も集落の拡大の要因として考えられる。蔵畑Ⅱ遺跡では、丘陵状の斜面で、農地に適した土地も狭く農業効率の低い地域に集落が営まれている。蔵畑Ⅱ遺跡周辺では、大規模な集落が認められないながらも、遺跡の特徴として、特殊遺物が多数出土しており、一般的な農耕集落とは異なる。また、住居址の竈構築材や覆土中から布目瓦が出土していることから、遺跡周辺に寺院が存在することが想定でき、本集落が寺院に関連する可能性も考えられる（飯田2001）。平安期の寺院と集落とが共存する例は、中里見原遺跡（榛名町：碓氷郡あるいは片岡郡）、八木連荒畑遺跡（妙義町：甘楽郡）、黒熊中西遺跡（藤岡市：緑野郡）、乗附廃寺（高崎市：片岡郡）等があり、いずれの遺跡も丘陵上あるいは山間部に占地している点といった蔵畑Ⅱ遺跡と立地条件が共通する。碓氷郡内で布目瓦等の出土によって寺院の存在を示唆する遺跡は、地尻Ⅱ・Ⅲ遺跡と植松・地尻遺跡（野後郷、郡家あるいは駅家）、行田梅木平遺跡（磯部郷あるいは坂本郷）等がある。今後の調査によって寺院が発見される可能性が高い点で注目される地域である。

蔵畑Ⅱ遺跡では多数の墨書土器と石帯、墨書付扁平礫、瓦類といった特殊遺物の点でも一般的な集落とは様相が異なることが判明した。墨書土器は「山万」、「山人万」をそれぞれ四角で囲った文字、「主」、「奉」といった文字が確認された。また、瓦に「人？」の文字が刻書されたものも確認された。「山万」は人名を省略したものと考えられ、「山（部）・人万（呂）」、「山人・万（呂）」、あるいはそれ以外と推定される（関口2001）。石帯は、役人が身につけるベルトの装飾品であり、本遺跡では銙尾部分のみが出土した。銙尾は３カ所に糸を通す小孔があるタイプである。同様な石製銙尾は長根羽田倉遺跡で同様な規格のタイプが出土している。扁平墨書付礫は棒状の礫の両面に「奉」の文字が墨書されたもので、県内でも類例がない石製品である。実用性がないことから、祭祀等の宗教遺物の可能性が考えられる。

瓦については、飽馬郷で７世紀後半から操業が開始された県内でも古い窯群が存在するが、９世紀半ばには生産は衰退する。こうした背景から、蔵畑Ⅱ遺跡の瓦は地元飽馬郷で生産された最後の段階の可能性も考えられるが、他地域からの搬入された可能性も十分考えられ、瓦の供給先が、この時期を境にして変容していったことを示すものと思われる。

本遺跡で検出された地震跡の一部は、住居址の時期が９世紀後半～10世紀前半の頃と推定されることから、亀裂がその年代以前であったと考えられる。さらに、本遺跡周辺で確認された地震による断層あるいは亀裂は、下原・賽神遺跡では断層の上部に浅間Ｂ軽石が堆積する。諏訪ノ木遺跡では古墳時代後期の住居址で亀裂（地割れ）が確認されている。したがって、周辺遺跡の状況から判断して、これらの断層あるいは亀裂の一部は、『類聚国史』等の古記録にある関東地方一帯を襲った弘仁９年（818年）に発生した地震跡と年代的に一致することから、間仁田地区でもこの地震の影響を受けていたものと推定される。

（井上慎也）

〈主要参考文献〉

ここでは主なものに限定した。なお、市内遺跡の概要及び引用は各遺跡の報告書、『安中市史』第２巻、第４巻を参考としている。

大工原　豊他　1998 『上ノ久保遺跡・桜林遺跡・五ヶ遺跡』 安中市教育委員会

大工原　豊・千田茂雄・飯田陽一他　2001 『安中市史』第４巻　原始古代中世資料編

飯田陽一　2001 「蔵畑Ⅱ遺跡」『安中市史』第４巻　原始古代中世資料編

関口功一　2001 「古代（文書・記録）」『安中市史』第４巻原　始古代中世資料編

大工原　豊・関口功一他　2003 『安中市史』第２巻　通史編

井上慎也・大工原　豊・外山政子　2005 『蔵畑遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団

井上慎也　2005 『下原・賽神遺跡』 安中市埋蔵文化財発掘調査団

Ⅶ　蔵畑Ⅱ遺跡の地質調査

株式会社　古環境研究所

1　はじめに

安中市南部に位置する蔵畑Ⅱ遺跡の発掘調査では、良好な地質断面が認められるとともに、地割れ（報告では「断層」、ここでは「地割れ」とする）が検出された。そこで地質調査を行い、土層の層序を記載するとともに地割れの産状を記録することになった。調査分析の対象とした地点は、深掘トレンチ、Ａ断面、Ｂ断面の３地点である。

2　地質層序

（1）深掘トレンチ

この地点では、蔵畑Ⅱ遺跡の基本土層が認められた（図１）。ここでは、下位より暗褐色粘質土（層厚４㎝以上）、白色細粒火山灰層（層厚３㎝）、暗褐色粘質土（層厚３㎝）、成層したテフラ層、暗灰褐色土（層厚11㎝）、暗褐色土（層厚４㎝）、成層したテフラ層、褐色砂質土（層厚３㎝）、最下部に橙色軽石（最大径11㎜）を含む暗灰色粗粒火山灰混じり橙色軽石層（層厚14㎝，軽石の最大径13㎜，石質岩片の最大径５㎜）、褐色土（層厚７㎝）、橙色軽石層（層厚19㎝，軽石の最大径12㎜，石質岩片の佐田畏敬３㎜）、褐色土（層厚４㎝）、橙色軽石層（層厚10㎝，軽石の最大径８㎜，石質岩片の最大径２㎜）、褐色土（層厚６㎝）、黄橙色軽石層（層厚７㎝，軽石の最大径７㎜，石質岩片の最大径３㎜）、黄橙色軽石混じり褐色土（層厚12㎝）、褐色土（層厚24㎝）、黄色軽石（層厚26㎝）、暗褐色土（層厚53㎝）の連続が認められた（図１）。

これらのうち、２層の成層したテフラ層のうち、下位のテフラは下位より黄白色風化軽石層（層厚５㎝）、褐色風化軽石層（層厚１㎝）、白色風化軽石層（層厚６㎝）、黄橙色軽石層（層厚43㎝，軽石の最大径18㎜，石質岩片の最大径９㎜）、灰色石質岩片層（層厚６㎝）から構成される。またその上位の成層したテフラ層は、下部の黄色軽石層（層厚４㎝，軽石の最大径８㎜）と上部の灰色粗粒火山灰層（層厚３㎝）から構成されている。

最下位の白色細粒火山灰層は、層相から約2.2－2.5万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT，町田・新井，1976,1992）に同定される。その上位の６層のテフラ層は、層相から約2.1－1.8万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻褐色軽石群（As－BP Group.新井，1962，早田，1994）に同定される。とくに最下位のテフラは、層相から室田軽石（MP）と呼ばれるテフラに同定される。またその上位にある黄色軽石は、層位や岩相から約1.3－1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As－YP，新井，1962，町田・新井，1992）に由

来すると考えられる。

（2）A地点

地割れが認められた地点のうち、地割れの下盤にあるA地点の断面では、下位より灰色粘土層（層厚100cm以上）、褐灰色粘質土（層厚29cm）、褐色酸化鉄層（層厚４cm）、黒褐色マンガン層（層厚３cm）、白色細粒火山灰層（層厚２cm）、灰褐色粘質土（層厚５cm）、成層したテフラ層、暗褐色土（層厚27cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚７cm）、褐色土（層厚１cm）、黄色軽石層（層厚27cm，軽石の最大径７mm）が認められた（図２）。

これらのうち成層したテフラ層は、下位より黄白色風化軽石層（層厚６cm，軽石の最大径５mm）、白色細粒軽石層（層厚６cm，軽石の最大径５mm，石質岩片の最大径３mm）、橙色軽石層（層厚41cm，軽石の最大径16mm，石質岩片の最大径８mm）、灰色石質岩片層（層厚６cm，石質岩片の最大径３mm）から構成される。

白色細粒火山灰層は、層相からATに、その上位のテフラ層はAs－BP Groupに同定される。その上位の３層のテフラ層は、層相からAs－BP Groupに同定される。とくに最下位のテフラは、層相から室田軽石（MP）と呼ばれるテフラに同定される。

（3）B地点

地割れの上盤にあるB地点の断面では、下位より褐色酸化鉄層（層厚２cm）、黒褐色マンガン層（層厚３cm）、白色細粒火山灰層（層厚２cm）、灰褐色粘質土（層厚４cm）、成層したテフラ層、暗褐色土（層厚15cm）、灰色粗粒火山灰層（層厚５cm）、褐色土（層厚１cm）、黄白色軽石層（層厚10cm，軽石の最大径４mm）、褐色土（層厚４cm）、橙色軽石層（層厚18cm，軽石の最大径７mm，石質岩片の最大径２mm）、黄色軽石混じり褐色土（層厚18cm）、橙色軽石層（層厚９cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径５mm）、褐色土（層厚５cm）、暗褐色土（層厚41cm）、黄色軽石混じり褐色土（軽石の最大径38mm，石質岩片の最大径13mm）が認められた（図３）。

これらのうち成層したテフラ層は、下位より黄白色風化軽石層（層厚３cm，軽石の最大径７mm，石質岩片の最大径２mm）、灰白色細粒軽石層（層厚４cm，軽石の最大径11mm，石質岩片の最大径５mm）、橙色軽石層（層厚19cm，軽石の最大径17mm，石質岩片の最大径４mm）、灰色石質岩片層（層厚４cm，石質岩片の最大径３mm）から構成される。

最下位の白色細粒火山灰層は、層相からATに同定される。その上位の５層のテフラ層は、層相からAs－BP Groupに同定される。とくに最下位のテフラは、層相から室田軽石（MP）と呼ばれるテフラに同定される。またその上位にある黄色軽石は、層位や岩相からAs－YPに由来すると考えられる。

蔵畑Ⅱ遺跡において発掘調査で検出され、地質調査の際に観察された地割れは、少なくともAs－YP層準を切って形成されている。したがってその形成年代は約1.4万年前より新しいと考え

られる。

3　まとめ

蔵畑Ⅱ遺跡で認められたいわゆるローム層について、土層の観察記載を行った。その結果、粘土層とその上位に形成されたローム層中に、下位より姶良Tn火山灰（AT，約2.2－2.5万年前）、少なくとも６層からなる浅間板鼻褐色軽石群（As－BP Group，約1.8－2.1年前）、浅間板鼻黄色軽石（As－YP, 約1.3－1.4万年前）の示標テフラを検出することができた。蔵畑Ⅱ遺跡において、検出された地割れは、少なくともAs－YP層準を切って形成されている。したがってその形成年代は約1.4万年前より新しいと推定される。

〈参考文献〉

新井房夫　1962 「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編』10　p.1－79.

町田　洋・新井房夫　1976 「広域に分布する火山灰―姶良Tn火山灰の発見とその意義」『科学』46　p.339－347.

町田　洋・新井房夫　1992 『火山灰アトラス』東京大学出版会　276p.

早田　勉　1994 「群馬の示標テフラと自然環境」『群馬の岩宿時代の変遷と特色』笠懸野岩宿文化資料館・岩宿フォーラム実行委員会　p.20－24.

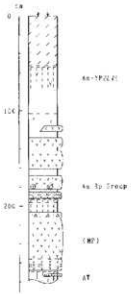


図1　深掘トレンチの土層柱状図

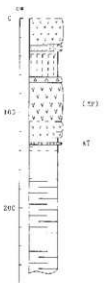


図2　南西部東壁A断面の土層柱状図

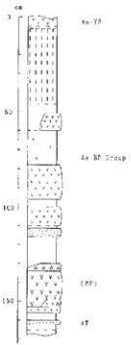


図3　南西部東壁B断面の土層柱状図

写　真　図　版

図版１

蔵畑Ⅱ遺跡　全景

Ｈ－１号住居址

Ｈ－１号住居址　遺物出土状況

Ｈ－２号住居址

Ｈ－２号住居址　遺物出土状況

図版２

Ｈ－２号住居址　遺物出土状況

Ｈ－２号住居址　掘り方（地割れ）

Ｈ－３号住居址

Ｈ－３号住居址　遺物出土状況

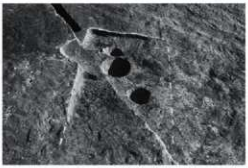
Ｈ－３号住居址　遺物出土状況

Ｈ－３号住居址　石帯出土状況

Ｈ－３号住居址　竈

Ｈ－３号住居址　掘り方

Ｈ－４号住居址



Ｈ－４号住居址　掘り方

Ｈ－５号住居址

Ｈ－５ｂ号住居址　遺物出土状況

Ｈ－６号住居址

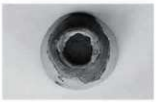
Ｈ－６号住居址　遺物出土状況

Ｈ－６号住居址　掘り方

断層（４トレンチ深掘）

図版４

16区１層



7区１層

竈

16区１層

3区１層

D－１

3区１層

11区１層

H－１号住居址出土の土器

D－１・D－２

D－１

D－１

D－１

竈

竈

12区１層

15区１層

15区１層

８区１層

16区１層

12区１層

15区１層

H－２号住居址出土の土器（１）

図版６

16区１層

16区１層

16区１層

16区１層

16区１層

16区１層

16区１層

Ｄ－１

Ｄ－２

12区１層

内面

Ｈ－２号住居址出土の土器（２）

10区３層

竈５・竈６

19区２層・３層
10区３層

４区３層・３区３層
８区３層

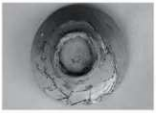
15区３層・４区３層

５区２層・６区２層
10区３層

５区３層

掘り方

掘り方



３区３層

掘り方

竈２・竈４

Ｈ－３号住居址出土の土器

図版８

甕

甕

D－１・11区３層

甕

Ｈ－３号住居址出土の土器

D－１

Ｈ－４号住居址出土の土器

13区３層

14区２層

13区２層・３層

６区２層

13区２層・14区２層

13区２層

竈１

竈・10区４層・14区２層

13区３層

竈１・竈覆土

竈１・９区２層・10区２層

Ｈ－５ａ号住居址出土の土器

図版10

13区３層・14区２層

10区２層・13区３層

10区３層・掘り方

２区３層

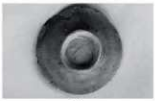
掘り方

竈

掘り方

10区３層・６区３層

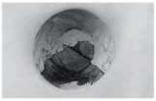
竈



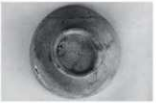
竈

Ｈ－５ａ号・Ｈ－５ｂ号住居址出土の土器

16区１層

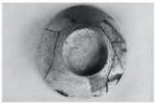


Ｄ－１



16区１層・掘り方

Ｄ－１



Ｄ－１・16区１層

竈覆土・12区１層

竈覆土

Ｇ－５グリッド

Ｄ－３グリッド周辺

Ｈ－６号住居址・グリッド出土の土器

図版12

H－１号住Ｄ－１

刻書部分

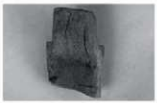
H－３号住15区２層

H－３号住竈

H－３号住19区２層

H－３号住６区３層

H－３号住竈



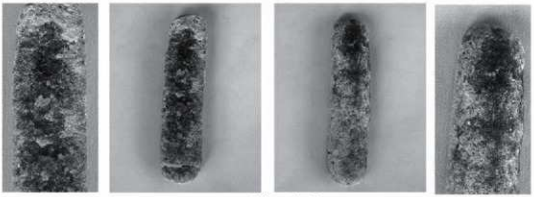
H－６号住竈

H－６号住竈

H－６号住16区１層

図版14

H－３号住５区３層



H－３号住５区３層

H－５ｂ号住１区３層

H－５ｂ号住14区３層

H－５ｂ号住２区３層

H－６号住12区１層

H－５ｂ号住１区３層

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	くらはたにいせき
書名	蔵畑Ⅱ遺跡
副書名	老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	井上慎也　深町　真　飯田陽一
編集機関	安中市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	379－0192　群馬県安中市安中一丁目23－13（安中市教育委員会内）
発行年	西暦2006年（平成18年）２月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
蔵畑Ⅱ遺跡（くらはたにいせき）	安中市（あんなかし）鷺宮字蔵畑（さぎみやあざくらはた）	102113	G－24	36°18′16″	138°53′58″	19950220～19950307	850㎡	老人保健施設建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蔵畑Ⅱ遺跡	集落	平安	住居址　7 土坑　1 地震跡（断層）	須恵器（坏・椀・甕・長頸壺等）土師器（甕等）・瓦（布目平瓦・丸瓦）石製品（石帯・墨書付扁平礫）、刀子	寺院及び公的施設に関連する集落。 「山万」、「山人万」の墨書土器。 「奉」の文字が墨書された扁平礫。石帯の鉈尾。

蔵畑Ⅱ遺跡

老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日　平成18年2月28日

編集・発行　安中市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県安中市安中一丁目23番13号
（安中市教育委員会内）

印刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67